

本日のテーマ

1. 受身に関する疑問
2. ストーリー・テリング実践 1～3
3. 受身の運用練習としてのストーリーテリング
実例から学習者への指示内容を考える

1. 受身に関する疑問

- 言語によっては、受身という文法カテゴリーがない言語もあり、受身を使わなくても、事態を描くことができる。たとえば、

- 1 鈴木さんは山田に文句を言われた。山田さんは鈴木さんに文句を言った。
- 2 私は先生に呼ばれた。先生は私を呼んだ。
- 3 草枕は漱石によって書かれた。漱石は草枕を書いた。
- 4 日本列島が太平洋高気圧におおわれる。太平洋高気圧が日本列島をおおう。

なぜ、受け身が必要なのか？

□ 能動文より受身文のほうが好まれるとき 1

1. 春の陽気が私を誘いました。
2. 電話が妹を起こしました。
3. 規則が子どもたちを縛っています。
4. 友達の手紙が わたしを 励ましました。
5. ドアが私の手をはさみました。
6. 知らない人が私の足を踏みみました。

■■ 1. 日本語文で、2つの名詞から主語を選ぶ場合

人 > 生物 > 無生物、 私 > あなた > 三人称

□ 能動文より受身文のほうが好まれるとき 2

1. こどものとき、母が、よく、私を叱って、私は、泣きました。
2. 先生は、王さんに、不合格かもしれないと言って、王さんは心配しました。

■■ 2. _____をそろえて、_____を統一したほうが好ましいとき

■ 迷惑受身とは？

■ 迷惑受け身の構造と間接受け身とも呼ばれる理由

1. 友達が帰る ⇒ 私 + 友達が帰る ⇒ (私は) 友達に帰られる
2. 雨が降る ⇒ 私 + 雨が降る ⇒ (私は) 雨にふられる

- ・親友が結婚する 同僚が休む
- ・天気が崩れる 道が凍る 料理が冷める 道が渋滞する お金がなくなる

「友達が帰る・休む・結婚する」また、「雨が降る」といった、主語に直接向けられた行為や出来事でなくても、受身にすることによって、その主語が この出来事の影響を受けた(=迷惑)ということを示すことができる。

■ 使役受身「(さ)せられる」も迷惑の意味？

迷惑の意味が生じるのは、直接向けられた行為を受けた場合に用いられることが多い。

直接向けられた行為：勉強させられた 持たされた 書かされた 走らされた
待たされた

- c.f. 間接的な影響：感情の動詞 びっくりする はらはらする はっとする
思考の動詞 考える 感じる 反省する

2. ストーリーテリング実践

ストーリーテリング1（初級をおえたばかりの学習者を想定して）

ストーリーテリング2

ストーリーテリング3

3. 受身の運用練習としてのストーリーテリング：実例から学習者への指示内容を考える

語彙確認 ⇒ ペアで相談 ⇒ 書く ⇒ 全員で3つの作文をフィードバック

1

1)

小学生は3人です。だれが、ランドセルをもつか きめました。じゃんけんをしました。まけられたこどもは、かったこどもに かばんをもたせました。大人は3人です。二人は上司でした。部下は 上司にかばんをもたせました。

2)

小学生が3人います。にもつをもちたくないで、じゃんけんしました。まけたこどもはかった子どもたちのにもつをもたされました。そのとき、三人のおとなもいました。部下のとき、上司の荷物をもたされました。大人は子どもをみて、こどものせかいいいといっってうらやましかったそうです。

3)

子ども3人がじゃんけんをして、負けた人がランドセルを全部もたされます。それを見ていた山田さんは「こどものせかいいいな～」と言っています。大人の世界ではこどものそれとはちがってじゃんけんて負けた人にかばんを持たせることはできないんですね。

4)

いつも上司の荷物をもたせられる万年課長は、じゃんけんをして勝った人が負けた人にランドセルを持たせる子どもたちを見てうらやましく感じる。また、そのようなおじさんを見ている子どもはおかしく感じる。

5)

ともだちがさんいんで じゃんけんしました。まけたこどもにみんなの荷物をもたせました。こどもたちはあるいている間におとなは荷物を持つ子どもをみました。そのおとなはぶかですから、いつもじょうしのにもつを持たなければなりません。子どもの世界はいいとおもいました。

2

1) えかきは おばあさんに にがおえをたのまれました。でも、おばあさんにおこらせました。じつはおばあさんがえかきにたくさん にがおえを かかされましたから。

2)ある日一人のえかきはおばさんにながおえをかかされました。そのにおえをおばさんはすきじゃなかったで、たくさんもつと書かされました。

3)おばあさんは絵描きに似顔絵を書かせました。その似顔絵は、きれいじゃなくて、ひんかくもなくて、全然似ていないと思いました。えかきに何回もかかせました。おばあさんはほめませんでした。

4)ある日おばあさんは街角で絵描きを見て、絵描きに自分の似顔絵をたのみました。でも絵に品格ないので、絵描きにたくさん書き直させました。

5)おばあさんは道の画家に似顔絵をたのんだ。だが、画家が描いた絵を見て、絵に品格がないと文句を言った。それでかわいそうな画家はおばあさんが満足するまで何枚も絵をかかなければならなくなった。

3

1)

犬はえさをたべているあいだにカラスきました。カラスはえさをたべたいですから、いぬにからかせました。それからひもがまかれました。ひもはみじかくとき、からすはえさをたべました。

2)

犬はえさをたべるときカラスはえさをたべたかったのでいいかんがえをかんがえました。それで 犬はカラスにからかわせたので からすを追いかけてました。そして、木にひもをまかれました。それでえさをからすにたべられました。

3)

犬は木にひもでつながれている。ある日、主人は犬にえさをたべさせました。犬はえさをたべるところですが、カラスもたべたいです。カラスは犬をからかいました。犬はカラスにおこられて、からすに追いかけてました。しかし、ひもは短いですから、犬はきにまかれました。さいご、カラスはひとりでえさをたべてしまいました。

4)

犬がえさを食べる時、カラスがきました。カラスもえさをたべたいですから犬をからかいました。カラスは飛んで、犬に追いかけてました。それから犬のひもがまかれました。犬は、ひもがみじかくてえさを食べられませんでした。最後にカラスがえさをひとりでゆっくりたべてしまいました。

5)

からすは犬のえさを食べたいので一つの方法を考えた。犬をつないだ木とえさの距離はぴったりなのでからすは犬を怒らせて、木のまわりにぐるぐるまわって追いかけて、犬をつないだひもが短くなってえさが取れなくなった。最後にかからすは犬のえさをゆっくり食べた。